

# 令和4（2022）年度事業報告書

## ★ 大阪工業技術専門学校

### 1. 学科別出願者、入学者数の状況

（令和5（2023）年5月1日現在）

学科名	区分	入学定員	出願者	入学者
I部建築学科		120名	85名(121)	81名(115)
建築設計学科		30名	26名(35)	25名(32)
インテリアデザイン学科		40名	38名(36)	36名(33)
大工技能学科		40名	27名(43)	27名(43)
ロボット・機械学科		40名	26名(39)	24名(34)
建築士専科		50名	19名(37)	15名(33)
II部建築学科		50名	48名(68)	46名(61)
フレックス建築学科		募集停止中	－ (0)	－ (0)
合 計		370名	269名(379)	254名(351)

（ ）は昨年度数

### 2. 就職の状況

#### ① I部卒業生

（令和5（2023）年3月31日現在）

学科名	令和2（2020）年度				令和3（2021）年度				令和4（2022）年度			
	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率
I部建築学科	101	71	67	94.4	113	97	88	90.7	79	71	64	90.1
建築設計学科	22	17	15	88.2	24	20	16	80.0	25	23	20	87.0
大工技能学科	33	32	32	100	28	26	25	96.2	32	31	30	96.8
インテリアデザイン学科	29	27	25	92.6	39	24	19	79.2	26	21	19	90.5
ロボット・機械学科	43	41	41	100	40	39	32	82.1	35	33	30	90.9
建築士専科	27	26	26	100	30	29	28	96.6	33	33	31	93.9
合 計	262	221	213	96.4	275	236	209	88.6	230	212	194	91.5

※内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

### 3. 教育行事

1) 企業研修 夏季全学科合計：R4：119名（R3：100名、R2：未実施）

春季全学科合計：R4：60名（R3：55名、R2：161名）

※ 夏季または春季休暇期間中の1～2週間で実施

※ 緊急事態宣言の発令に伴い、令和2（2020）年夏季は中止とした。

## 2) 保護者会の実施

➤対面実施に代えて「進路説明会」を動画配信

## 3) 大阪府「あすなろ夢建築」コンペへの参加

➤令和4（2022）年度1名グランプリ、1名奨励賞

## 4) 社会に向けたモノづくり実践事業

➤大工技能学科「棟上げ実習骨組」を丹後半島在住の方へ寄贈

## 5) ロボット競技会の実施、及び全国専門学校ロボット競技会への参加

➤令和4（2022）年度以降の開催中止が決定、

代えて「つやまロボットコンテスト」に参加し、一般の部で第3位入賞

## 4. 教育改革等

令和4（2022）年度はコロナ禍の対応策として、年度通して講義系科目はオンライン、実習系科目は対面の併用型授業運営により進めた。3年目となるオンライン授業について経験値は向上しているが、教員ごとの授業の質に差異が生じぬよう、引き続き質向上を目指すことが検討事項であると確認された。10月末に3号館5階の4教室および5、6号館の4教室に電子黒板が追加設置されたことにより、電子教材を用いた授業を試行的に実施、令和5（2023）年度の本格運用に向け活用研修や検討を行った。電子黒板の導入により、オンライン授業で開発した電子教材が対面授業においても利用可能であること、効率よく密度の高い授業が可能であること等が確認できたことは成果として挙げられる。継続的にICT活用による教育技法の検討、研究を行っていく。

学力低位の学生が多く入学してくる中、基礎学力テストにより対象者を絞り出し基礎学力養成講座への参加を指示。当該講座の実施形態を対面形式とする中、毎回ほとんどの者が参加しており、除中退への歯止めにも多少なりとも役立っていると推察する。また令和4（2022）年度は、登校授業が週3日または4日で固定となり、その前年度と比較して担任含め教員との接触機会が昨年度より増加した。このことも除中退率を減少に転じさせる要因の一つと考えられる。

次に、キャリアデザイン授業の一部である「進路基礎講座」は社会人マナーやSPI対策、学生の進路意識向上や活発な進路活動を促すことに効果を上げている。「企業研修」はこれまで同様に多くの学生がエントリーした。これは企業側が採用活動の一環として重視する傾向が一因と思われる。企業研修は職業意識の強化や適性確認等、効果的に進路意識向上を図る術でもあり、引き続き企業研修参加への継続的な指導を行っていく。

最後に、多くの学外実習が中止または縮小となったが、職業実践、産学接続を実現すべく、各学科で形を変え可能な限り、企業、行政等と連携した教育行事を行った。

### (1) 資格取得強化事業

新入生全員（リカレント学生の一部を除く）に対して実施している『ビジネス能力検定3級・2級』と学科の授業科目に対応した『福祉住環境コーディネーター3級』、『建築大工技能士3級・2級』、『第2種電気工事士（学科・技能）』、及び建築士専科が100%合格を目標としている『2級建築士試験（国家資格）』の合格率は下記の通りである。

Ⅱ部建築学科・フレックス建築学科を除く全学科（1年生）

（令和4.12.4実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定3級	85名	55名	64.7%	77.2%
ビジネス能力検定2級	2名	1名	50.0%	66.4%

I部建築学科 A・B・C・Dクラス、建築設計学科（1年生）

（令和4.7.22～8.8実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
福祉住環境コーディネーター3級	101名	17名	16.8%	39.4%

大工技能学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
建築大工技能士（3級）	39名	24名	61.5%	67～87%
建築大工技能士（2級）	29名	15名	51.7%	37～41%

※全国平均の詳細は公表されず、級別のおおよその数値となる

ロボット・機械学科

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
第2種電気工事士（学科）	7名	5名	71.4%	56.0%
第2種電気工事士（技能）	5名	3名	60.0%	72.6%

建築士専科

2級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験（1次）	33名	29名	4名	87.9%	42.8%
製図試験（2次）	29名	19名	10名	65.5%	52.5%
総合	33名	19名	14名	57.6%	25.0%

☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

・講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2級建築士合格講座（製図）	2か月	63時間	14名
第2種電気工事士講座（筆記&技能）	4か月	65時間	未開講
合計			14名

＊積水ハウス 設計マインド研修

1年次初級版として、10/16、23、11/6に入社1年目社員147名に研修（講習）を実施した。  
4年次中級版として、8/22、23、24、25、9/5、6、12、13に入社4年目社員81名に対する  
研修（講習）を実施した。両研修とも完全オンライン形式として開催した。

☆ 校友会の活動状況

1. 広報渉外活動

- (1) 第85期 総務会をオンラインにて開催（令和4（2022）年11月27日）
- (2) 支部活動は以下の行事を開催したが、留学生歓迎会については新型コロナの影響により中止
  - ① IIKen：春の遠足（三井寺）      ② IIKen：新社会人・新入生歓迎BBQ大会
  - ③ 兵庫支部：尼崎城・有岡城見学会      ④ 北陸エリア：支部交流会
  - ⑤ IIKen：秋の味覚祭（BBQ）      ⑥ 各支部役員会
- (3) 日本国際ドラゴンボート選手権大会に出場
- (4) 校友会ネットワーク推薦制度として8名を推薦した

2. 福利厚生活動

- (1) 卒業アルバム（WEB版）の制作及び記念品の贈呈
- (2) II部建築学科の卒業パーティーへ助成
- (3) 卒業設計の審査により卒業式に校友会奨励賞と金一封を贈呈（3組）
- (4) 校友会祝意として表彰と金一封を贈呈
  - ① 第31回ゴムワングランプリ（2名）      ② 第27回つやまロボットコンテスト
  - ③ 第32回大阪府公共建築設計コンクール「あすなろ夢建築」（2名）
- (5) 学生自治会に協賛して「卒業セレモニー」を私学会館にて開催
- (6) 国家資格合格者報奨金を贈呈（第84期：37名）
- (7) 入学お祝いのお食事券を発行

3. 記念事業特別会計として、新型コロナ感染症の安定により、学生支援の代わりとして学園の広報及び事務局にタブレットをそれぞれ寄贈

★ 大阪リハビリテーション専門学校

1. 入学試験の状況

区分 学科名	入学定員	志願者	合格者	入学者
II部理学療法学科（3年制）	40名	39名 (58)	38名 (42)	35名 (40)
II部作業療法学科（3年制）	40名	32名 (44)	28名 (39)	26名 (34)

（ ）は昨年度数

令和4（2022）年度入学試験より、社会人AO入試を開始した。

各入試方式別の志願者数、入学者数は以下のとおりである。

学科名 \ 区分	AO（高校生）	高校推薦	一般	社会人AO
理学療法学科 入学者数（志願者）	4名（4名*）	0名（0名）	7名（10名）	24名（25名）
作業療法学科 入学者数（志願者）	3名（3名*）	0名（1名）	14名（17名）	9名（11名）

\*AO（高校生）入試エントリー人数は、PT 4名、OT 3名。（ ）は志願者数

## 2. 国家試験の合格者数の状況

専任教員による国家試験対策授業に加え、本校が加盟している全国リハビリテーション教育協会主催による国家試験対策特別講義の受講、複数回の模擬試験の実施と分析、外部講師による直前対策セミナー、卒業生による学習支援などを行った。また、模擬試験結果を踏まえ、成績低迷者に対しては補講を実施し、午前・午後・夜間帯の三部構成で個別での面談・学習サポートを行った。さらに、精神的な不安を抱えた学生にはメンタルケアや内発的動機づけを意識した個別面談も実施するなど、学生に合わせたきめ細やかな指導を行い、下記のとおり結果となった。

### (1) OCRの合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	24名	22名	91.7%
作業療法士	25名	25名	100.0%

### (2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	10,824名	10,272名	94.9%
作業療法士	4,809名	4,390名	91.3%

## 3. 就職の状況

令和4（2022）年度の求人数については、理学療法士2,605件、作業療法士2,229件であった。理学療法士の求人数は前年度比で増加しており、作業療法士の求人数はおおむね現状維持であった。両学科ともに、専任教員が履歴書の書き方を含め、きめ細かに個別に就職支援を行った結果、下記の通りの結果となった。

	卒業者数	国家試験合格者数	就職者数		進学者数	就職活動中
			資格に係る業	その他		
理学療法学科	24名	22名	21名	1名	0名	2名
作業療法学科	25名	25名	23名	0名	0名	2名

※国家試験受験後の就職先未定者は、卒業後、現在も活動を継続しており、教員も引き続き指導を行っている。

#### 4. 教育指導

- ・職業実践専門課程の認可条件でもあるが、両学科共に学校関係者評価委員会（1回／年）ならびに教育課程編成委員会（2回／年）を開催した。学校関係者評価では、自己点検評価報告書に基づき外部委員による第三者評価を受けたが、基準1～9の全ての項目でA.十分に満足できる、B.満足できるという結果であった。教育課程編成委員会ではカリキュラムや学習指導・フォローの実施状況、実習等での取り組み等について報告し、外部委員から多様な視点から現場や業界の実情にそった意見やご指摘等をいただいた。これらの内容に基づき、教育内容や今後の指導等について、改善・検討を行ない、引き続き教育課程の編成や学校運営等に活かしていく。
- ・退学者数の抑制については、以下の対策を行なった。
  - 過去の退学者の状況分析に基づき、退学者や休学者が特に多い1年次に、入学後の学習や学校生活を円滑に開始し学生生活に馴染むことができるよう、入学前に新卒の高校生を対象に5回、全学生を対象に1回、不安点を解消する目的で入学前オリエンテーションを実施した。
  - 令和4（2022）年度より、1年生を対象に教育アシスタント制度を導入し、理学療法学科は平日に週2回、作業療法学科は土曜日に週1回、各学科卒業生2名によるサポートを行った。学生の基礎学力の定着を狙い、解剖学や生理学といった基礎科目の補講を中心に指導し、卒業生が実際に行っていた勉強方法や授業への取り組み方といったことも交えたものとした。自発的な申込みだけでなく、成績不良者に関しては専任教員より積極的な参加を促した。参加者には一定の効果が得られたが、本当に参加してほしい学生（成績低迷者）が積極的に参加するには至らなかった。次年度以降も本制度を継続し、成績低迷者へのアプローチをより工夫し積極的に行い、引き続き退学者数の抑制を目指していく。
  - 上級生に関しては、専任教員による実技指導などを正課外で実施した。
- ・臨床実習では、実習途中でのリタイアを無くすため、専任教員が定期的に実習先を訪問し、臨床実習指導者と連携しての学生指導を実施している。全員一律での対応ではなく、問題となる学生を予測し、回数を増やすなど、学生に合わせた細やかなサポートを行っている。
- ・ITワーキングや教務委員会を中心に遠隔授業の方法やルールを確立することが出来た。また、学内実習においては、実習先とZOOMでつなぎ、対象者様の様子を観察しながら、プログラムを作成するなど臨地での実習と同様の経験ができるよう工夫した。

#### 5. 学習環境（施設）の整備について

- ・講堂、601のプロジェクター、基礎作業実習室1のモニターの入替、2号館の全照明機器をLEDへと改修し、授業環境を整え、より充実させることができた。  
また、例年、空調に関する意見があることから、空調設備業者に具体的な対応策を検討してもらうとともに試験的に数教室でエアコンルーバーを設置し、効果判定を行うこととした。

# ★ 大阪保健医療大学

## 1. 入学試験の状況

(名)

区分 専攻名	入学 定員	志願者									入学者
		総合型 選抜	学校 推薦型	指定校 推薦	一般 (共通テス ト併用)	チ ャ レ ン ジ	社 会 人	一般 (ST)	研究科	合 計	
理学 療法学 専攻	70	136 (79)	— (44)	18 (22)	50 (40)	42 (19)	0 (0)	—	—	246 (204)	81 (85)
作業 療法学 専攻	30	22 (24)	— (11)	5 (6)	17 (12)	12 (8)	0 (0)	—	—	56 (61)	23 (26)
言語 聴覚 専攻科	40	—	—	—	—	—	—	29 (26)	—	29 (26)	27 (21)
保健 医療学 研究科	6	—	—	—	—	—	—	—	1 (3)	1 (3)	1 (3)
合 計	146	158 (103)	— (55)	23 (28)	67 (52)	54 (27)	0 (0)	29 (26)	1 (3)	332 (294)	132 (135)

(第2志望含む) ( ) は昨年度数

\*令和5(2023)年度選抜より学校推薦型選抜は、指定校推薦(公募制推薦廃止)のみに変更

## 2. 国家試験の合格者数の状況

学部では専任教員による国家試験対策講義、卒業生による対策講座やグループ指導、学内模擬試験、外部講師による対策セミナー、各専任教員による個別指導に加え、成績低迷者に対する集中的な補講を実施するなど、両専攻共に組織的な取り組みと各教員におけるきめ細やかな対応を実施した。また、作業療法学専攻においては、国試100%を目指す協議会にてOCRの協力・指導を継続いただいた。結果、理学療法学専攻は1名が不合格となったが、全国平均合格率を大きく上回ることができた。一方、作業療法学専攻は5名が不合格となり、全国平均合格率を下回る結果となった。両専攻でこの結果を分析の上、より有効な指導方法、国試対策の在り方を共有し、令和5(2023)年度は共に全国平均を上回るだけでなく受験生全員が合格を達成できるよう組織的な体制構築を目指す。言語聴覚専攻科においては、外部講師によるグループ指導の取り組み等、これまで積み上げてきた確かな指導体制に基づき実施し、1名不合格であったものの、今回も全国平均合格率を大きく上回る結果であった。

### (1) OHSU の合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	56名	55名	98.2%
作業療法士	32名	27名	84.4%
言語聴覚士	18名	17名	94.4%

## (2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格率
理学療法士	10,824名	10,272名	94.9%
作業療法士	4,809名	4,390名	91.3%
言語聴覚士	2,515名	1,696名	67.4%

## 3. 就職の状況

求人数は理学療法士 2,624 件、作業療法士 2,365 件、言語聴覚士 1,292 件であり、コロナ禍以前と比較し減少したが、十分な求人数が確保できている。また、各専攻・専攻科ともに、キャリアサポート委員会を中心に就職セミナーや面接指導を実施し、特に面接指導では、課題のある学生について個別での補講セミナーも行った。さらに専任教員が求人票に基づき個別に学生指導を行うと共に、専任教員が臨床現場にて、現在の病院・施設での就職活動状況などの情報収集を行い、就職支援を行った結果、下記の通りの成果を得た。

	卒業者数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学専攻	56名	55名	55名	0
作業療法学専攻	32名	27名	27名	0
言語聴覚専攻科	18名	17名	16名	0

## 4. 教育指導

本学では、令和 2 (2020) 年度から新型コロナウイルス感染症対策を契機として、本格的に遠隔講義（リアルタイム配信 (Zoom) やオンデマンド）を取り入れている。令和 4 (2022) 年度についても教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができると教学委員会が認めた科目については、コロナ対策以外でも遠隔授業を実施することとした。また、新入生については遠隔講義の受講・操作方法のみだけでなく、スケジュール管理などもあわせてサポートし、スムーズに講義に入れるようにフォローを行った。

保健医療学部においては、平成 30 (2018) 年度からの 2 学期クォーター制導入に伴い、PT・OT 完全 3 クラス制を実施してきたが、令和 4 (2022) 年度で 4 年目となったことから、一旦これまでの結果を分析し、教育効果を維持しつつ教員の負担増等の課題について解決すべく、令和 4 (2022) 年度より座学・実技・演習科目に応じてクラス編成を改定することとした。また、令和 4 (2022) 年度より、これまでのフォロー制度の効果を引き継ぎながら、成績低迷者については一層効果的な底上げを図れるよう、学修意識を向上させる仕組みや学習支援塾と連携した継続フォローシステムを再構築して、新たなフォロー制度として一部制度改正を行った。当該取り組みに関しては、学生の知識定着、学力向上等に確実に寄与しており、また財団法人日本高等教育評価機構の認証評価においても「優れた点」として大学として高い評価を受けたことから、今後もより効果的な実施方法や支援体制について更なる質向上を図りながら継続して実施していく。

タブレット端末の積極的利用に関しては、GIGA スクール学生が入学する令和 7 (2025) 年度に向



けて計画的な準備を進めていたが、当初の計画より1年早い令和6（2024）年度よりCYOD方式（学校がある程度、端末の仕様や機種を複数指定して、利用者が選択し、購入を斡旋）で、新入生全員に対して端末を用意してもらう計画となった。そのため、ICTに関する知識や操作スキルの向上を図るべく、令和4（2022）年度にICT教育に関する教職員SD研修を行った。引き続き、段階的に取り組んでいく。

言語聴覚専攻科については、通常授業時の細やかな学生指導に加え、国家試験対策として学習低迷者の個々の特徴を捉え、教員がきめ細やかに指導方針を共有しあいながらグループ指導や個別指導を行ったが、令和4（2022）年度は1名不合格となった。不合格となった学生の要因を分析しつつ、これまで長年の国家試験合格率100%、全国1位という結果にも証されている質の高い教育、学修支援を継続して実施していく。

## 5. 施設・設備

令和3（2021）年度に実施した学生生活アンケート結果（視聴覚に対する改善を求める意見）及び令和3（2021）年度より発足した学生満足度アゲ隊（学生及び教職員代表者で構成）からの意見をふまえて、以下のAV機器の改修工事を行った。

- ・1号館 141教室・151教室 プロジェクターの改修及びモニターの新規設置。
- ・2号館 601教室・講堂 プロジェクターの改修、作業実習室1 モニターの新規設置。

さらには、例年、空調に関する意見があることから、空調設備業者に具体的な対応策を検討してもらうとともに試験的に数教室でエアコンルーバーを設置し、効果判定を行うこととした。

また、2号館の全照明機器をLEDへと改修し、授業環境を整え、より充実させることができた。

## 6. 自己点検・評価

令和4（2022）年度においても、「大阪保健医療大学内部質保証方針及び実施体制」及び「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、教育研究運営に至る全学的な自己点検評価報告書を作成し、各基準項目の「改善・向上方策」の継続課題について、担当委員会・部署にて内容を精査し実行に移していくことでPDCAサイクルに則り、諸活動を実施した。また、内部質保証システムに則り、成果や改善向上方策を自己点検して、事業報告、事業計画、中期展望及び期間中の取り組み（5ヵ年計画）に反映させるとともに、「大阪保健医療大学アセスメントプラン」に基づき、得られた課題・改善方策『令和4（2022）年度アセスメント実行レポート』を作成し、全教職員に情報共有を行った。さらには、財団法人日本高等教育評価機構へのⅡ期目の認証評価を受審し「適合」の認定を受けた。「優れた点」が多く評される一方で「改善すべき点」の指摘はなく、極めて高評価であった。

☆ 福田学園校友会の活動状況

1. 理事会及び部会の開催

①理事会

理事会は6回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。本年はWebと対面を併用したハイブリッドの理事会となった。

②部会研修会

新型コロナウイルスの影響を考慮して、Web開催の研修会を4回実施した。PT研修会1回（10月）、OT研修会1回（8月）、ST研修会2回（10月、2月）。

2. 福田学園校友会総会について

総会もWeb開催で行い、予算案を承認いただいた。

3. 在校生・学校支援について

- ・学校行事（卒業式・入学式）には、会長が祝辞を述べた。
- ・卒業式では、校友会賞として賞状・副賞を各専攻の1人を表彰した。
- ・ドラゴンボート大会では、OCT校友会に協賛という形で参加した。
- ・図書を寄贈した。

## ★ 福田学園

### 1. 理事、監事、評議員について

理事	選出母体	
1号	設置する学校の長(1名)	福田 益和
2号	評議員会(2名)	宮崎 安弘
		佐藤 誠
3号	学識経験者(4名)	山本 一仁
		水島 洋
		渡邊眞一郎
		福田 眞
監事		村岡 かほる
		菊田 薫

評議員	選出母体	
1号	学園職員(6~8名)	福田 益和
		佐藤 誠
		伊東 和幸
		石倉 隆
		島 雅人
		越智 久雄
		宗林 功
2号	卒業生(3~4名)	今西 永兒
		宮本 光二
		村野 智子
		井口 知也
3号	学識経験者(6~8名)	宮崎 安弘
		山本 一仁
		水島 洋
		福田 眞
		福田 祐子
		岡山 保美
		高橋 弘樹

### 2. 教職員の状況

		2023年5月1日現在	2022年5月1日現在	増 減
OCT教員	専任教員	17	15	+2
	非常勤講師	83	76	+7
	(小計)	100	91	+9
OCR教員	専任教員	15	15	0
	非常勤講師	113	98	+15
	(小計)	128	113	+15
OHSU教員	専任教員	34	33	+1
	非常勤講師	200	193	+7
	(小計)	234	226	+8
事務局	専任事務職員	32	33	-1
	業務委託派遣事務職員	2	1	+1
	(小計)	34	34	0
合計	専任教職員	98	96	+2
	講師・派遣	398	368	+30
	(合計)	496	464	+32

### 3. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化、及びネット回線及び光電話の契約先の変更による経費削減、学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、空調機の更新、及びデマンドコントローラーの更新及び電力使用量の監視、1・2号館照明器具のLED化を行い電気料金の削減を継続して行った。OHSUにおいては、令和4(2022)年度より経費削減及び環境問題を含むSDGs(Sustainable Development Goals)に積極的に取り組む観点から、掲示物のペーパーレス化を実施した。また、会議資料についても可能な限り、電子媒体での提供により経費削減に努めた。

### 4. 学園各号館の施設・設備改修計画について

各号館の建物附属設備・機器等について、改修及び入替について緊急性や費用を鑑み、年次で実行に移すための改修入替計画において、令和4(2022)年度は、5号館外壁改修工事(タイル・防水など)・2号館の全照明機器のLED化、1・3号館の消防設備の器具更新などを行った。さらには、1・2号館のプロジェクターを改修し、教育研究用機器備品の更新を行った。

### 5. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSUにおいては、令和4(2022)年度財団法人日本高等教育評価機構へのⅡ期目の認証評価を受審し、「適合」の認定を受けた。また、作業療法学専攻においては、(一社)リハビリテーション教育評価機構の認定審査を受審し、「適合」の認定を受けた。

OCT、OCRでは令和4(2022)年度においても、職業実践専門課程の認定(申請条件)の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果をOCT、OCRホームページ上に公開した。

また、令和3(2021)年度にOCRでは両学科とも(一社)リハビリテーション教育評価機構の認定審査を受審し、「適合」の認定を受けた。

### 6. 「教育の質の確保と向上」に向けた5カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みを行った。このため、引き続き令和4(2022)年度もOHSU、OCT、OCRにおいては、教育の質の確保と向上に対する5カ年計画(「中期展望および期間中の取組み」)を策定の上、目標設定等具体的に取組み、3校とも「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、計画の項目に必ず盛り込むこととした。

### 7. 教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』において、OCRでは、令和2(2020)年度に理学療法学科(3年制)において再指定を受けることができた。

OCTでは、令和5(2023)年9月末を以って、再指定期間が終了するため、令和6(2024)年度の学生募集に向けては、指定申請する類型を『業務独占・名称独占』から『職業実践専門課程』に変更するため新規指定としての準備を進めた。

## 8. ネット出願の導入について

OCT に於いては、平成 28 (2016) 年度より「キャリア教育共済協同組合」のネット出願事業の先行的取組みをスタートさせ、これまで一定の成果も見られた。今後も引き続き、文科省が推進する『高大接続改革』にも対応したネット出願のシステム内容についても注視して行く必要がある。また、全出願者の『完全ネット出願』が事務 DX にも繋がることから、その導入に向けた課題等の洗い出しを行った。

OHSU (学部・ST) および OCR は、全ての入試をネット出願にて実施した。文科省の方針では、令和 5 年 (2023) 年度入試にむけて調査書の完全電子化を目指すとしており、今後 e ポートフォリオの普及等と相まって、高校生・社会人の隔てなくネットでの出願が加速すると見込まれる。

## 参考資料

### ★大阪工業技術専門学校

<学科別学生数の状況>

(令和 5 (2023) 年 5 月 1 日現在)

学 科 名	修業年数	1 学年	2 学年	在籍数	増減	総定員	充足率
I 部建築学科	2 年	8 6	9 7	1 8 3	- 2 5	2 4 0	7 6. 3%
建築設計学科	2 年	2 5	3 3	5 8	- 1	6 0	9 6. 7%
大工技能学科	2 年	2 7	3 7	6 4	- 1 1	8 0	8 0. 0%
インテリアデザイン学科	2 年	3 8	3 1	6 9	+ 9	8 0	8 6. 3%
ロボット・機械学科	2 年	2 4	3 0	5 4	- 1 6	8 0	6 7. 5%
建築士専科	1 年	1 5	-	1 5	- 1 8	5 0	3 0. 0%
<b>I 部 小 計</b>		<b>2 1 5</b>	<b>2 2 8</b>	<b>4 4 3</b>	<b>- 6 2</b>	<b>5 9 0</b>	<b>7 5. 1%</b>
増 減		- 8 5	+ 2 3	- 6 2			
II 部建築学科	2 年	4 8	6 1	1 0 9	- 9	1 0 0	1 0 9. 0%
フレックス建築学科	2 年	-	5	5	- 5	※4 0	1 2. 5%
<b>II 部 小 計</b>		<b>4 8</b>	<b>6 6</b>	<b>1 1 4</b>	<b>- 1 4</b>	<b>1 4 0</b>	<b>8 1. 4%</b>
増 減		- 1 8	+ 4	- 1 4			
<b>合 計</b>		<b>2 6 3</b>	<b>2 9 4</b>	<b>5 5 7</b>	<b>- 7 6</b>	<b>7 3 0</b>	<b>7 6. 3%</b>
増 減		- 1 0 3	+ 2 7	- 7 6			

※フレックス建築学科は募集停止中に付き総定員でなく、※在籍学年の定員数を記載。

## 大阪リハビリテーション専門学校

<学科別学生数の状況>

(令和5(2023)年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学科	3年	39	33	34	—	106	120	88.3
作業療法学科	3年	26	30	26	—	82	120	68.3
<b>合計</b>		<b>65</b>	<b>63</b>	<b>60</b>	<b>—</b>	<b>188</b>	<b>240</b>	<b>78.3</b>

## ★大阪保健医療大学

<学科-専攻、専攻科別学生数の状況>

(令和5(2023)年5月1日現在)

専攻名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法専攻	4年	84	78	77	73	312	280	111.4
作業療法専攻	4年	24	21	19	34	98	120	81.7
<b>学部小計</b>		<b>108</b>	<b>99</b>	<b>96</b>	<b>107</b>	<b>410</b>	<b>400</b>	<b>102.5</b>
保健医療学研究科	2年	1	3	—	—	4	12	33.3
言語聴覚専攻科	2年	27	23	—	—	50	80	62.5
<b>合計</b>		<b>136</b>	<b>125</b>	<b>96</b>	<b>107</b>	<b>464</b>	<b>492</b>	<b>94.3</b>